

グラフでみる加工食品の 生産・販売・外食等の指標



目次

< グラフでみる "コロナショック"からの再生 >

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

< 今月のトピック >

- ・食品製造業のマークアップ率



1. 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品の調査対象のうち、特に今般の新型コロナウイルス感染症の影響が大きい品目の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

なお、詳細は、<https://www.fmric.or.jp/stat/index.html>

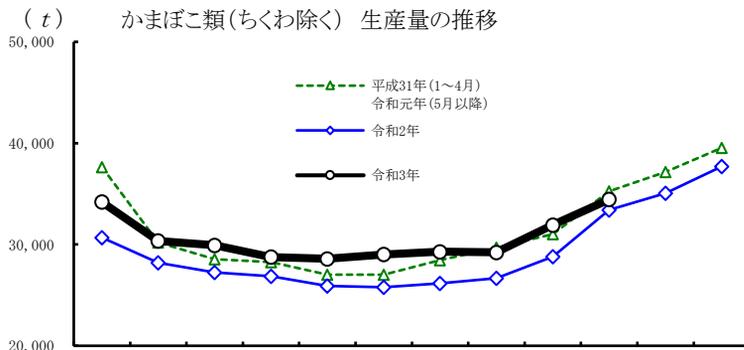
「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

10月 3.1% 増加

対前々年同月比 **2.3% 減少**

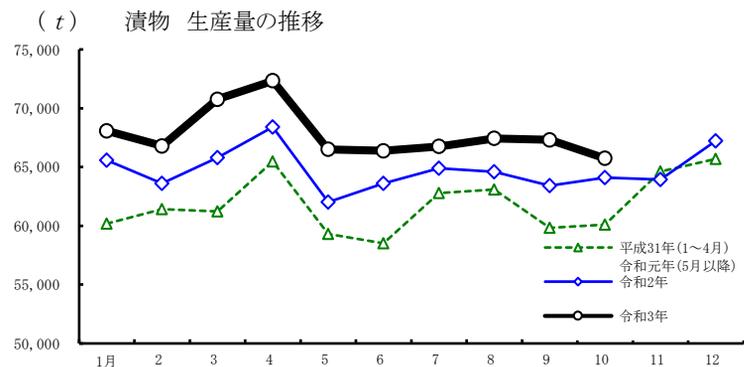


○ 漬物

生産量 対前年同月比

10月 2.6% 増加

対前々年同月比 **9.4% 増加**

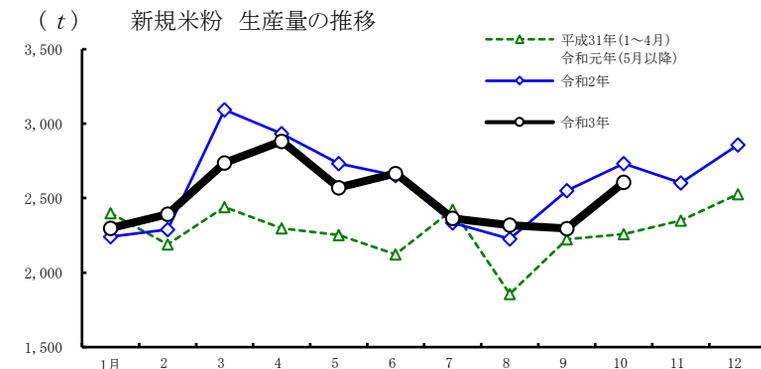


○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

10月 4.6% 減少

対前々年同月比 **15.4% 増加**

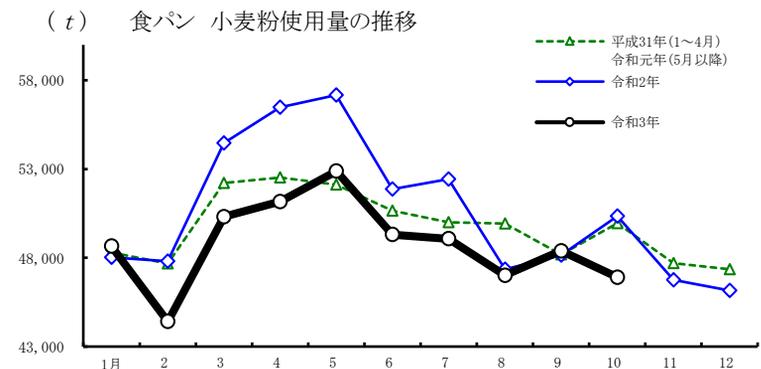


○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

10月 6.8% 減少

対前々年同月比 **6.1% 減少**



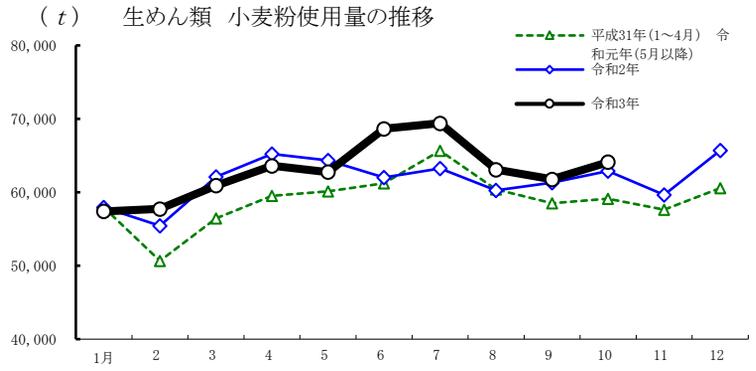
1. 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

10月 1.9% 増加

対前々年同月比 8.5% 増加

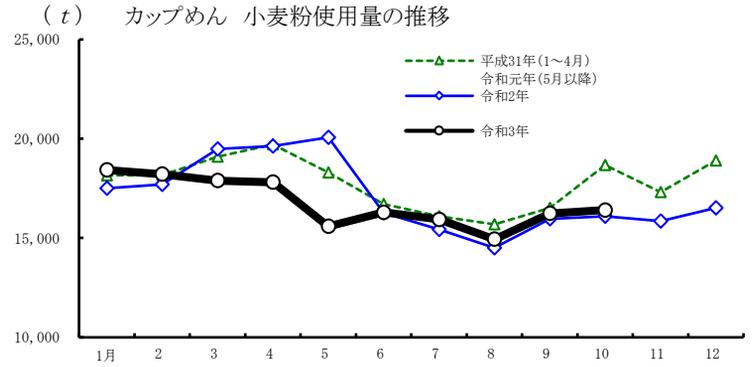


○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

10月 1.9% 増加減少

対前々年同月比 12.1% 減少

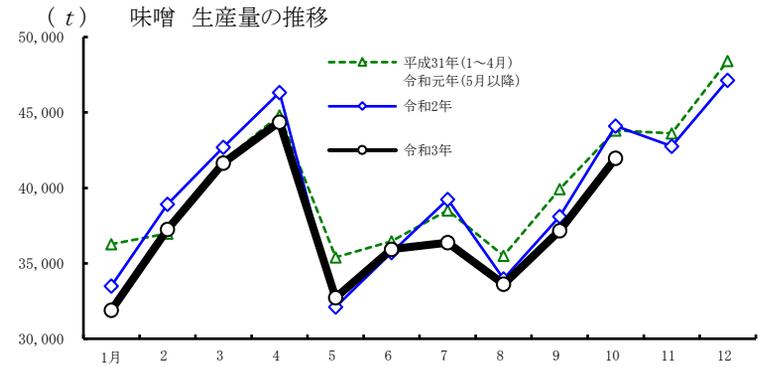


○ 味噌

生産量 対前年同月比

10月 4.9% 減少

対前々年同月比 4.2% 減少

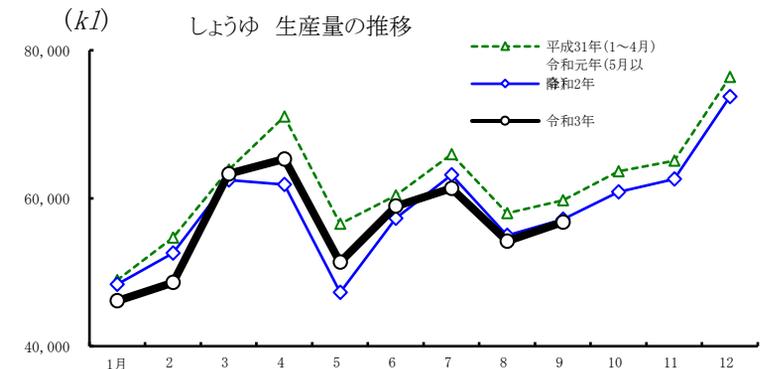


○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

9月 0.6% 減少

対前々年同月比 4.9% 減少



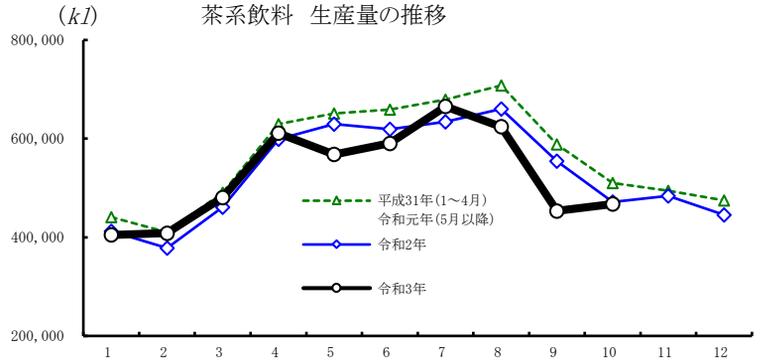
1. 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 茶系飲料

生産量 対前年同月比

10月 0.8% 減少

対前々年同月比 **8.4% 減少**

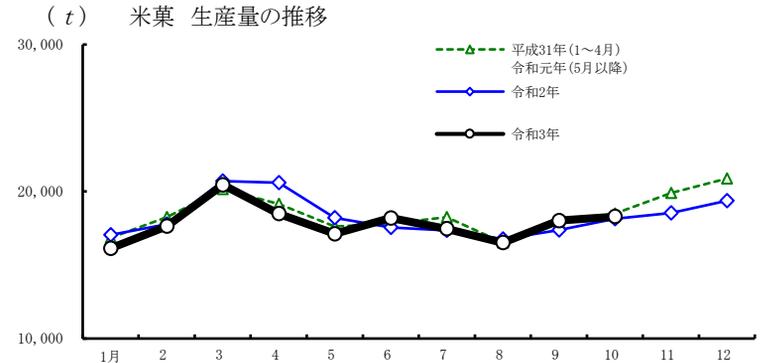


○ 米菓

生産量 対前年同月比

10月 0.8% 増加

対前々年同月比 **1.1% 減少**

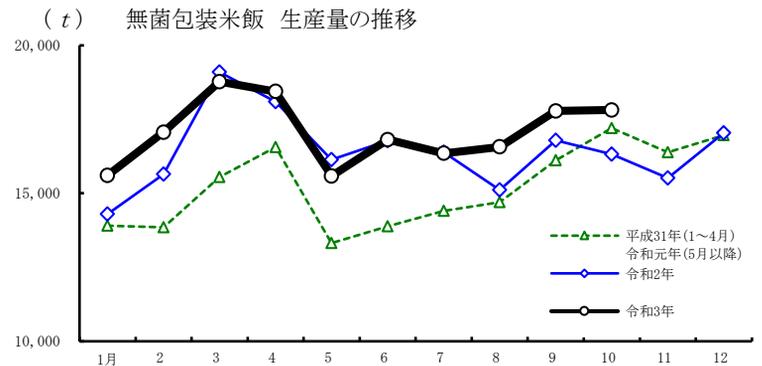


○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

10月 9.1% 増加

対前々年同月比 **3.6% 増加**

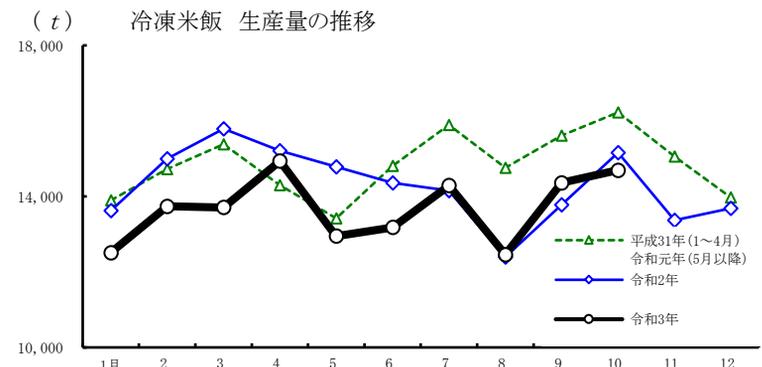


○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

10月 3.1% 減少

対前々年同月比 **9.4% 減少**



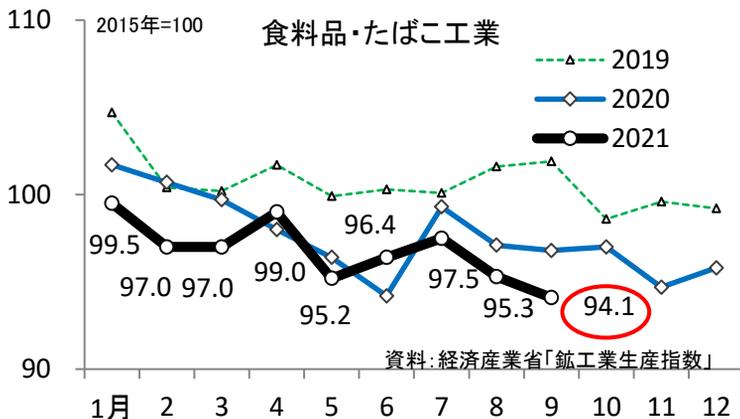
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

9月 2.8% 低下

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

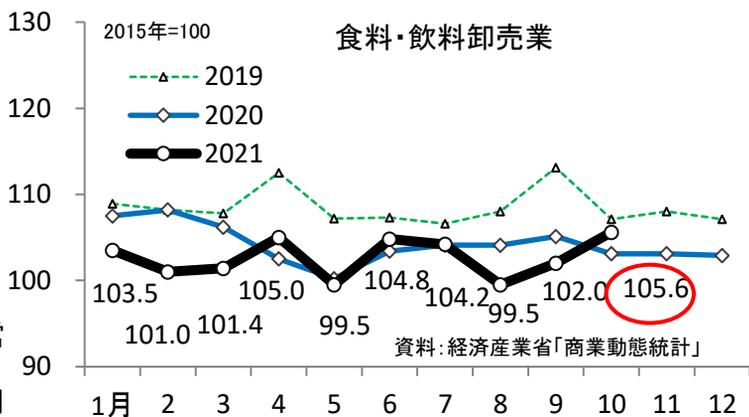
○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

10月 2.4% 増加

対前々年同月比 1.4% 減少

経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別(スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高(月次速報)について、みることができます。

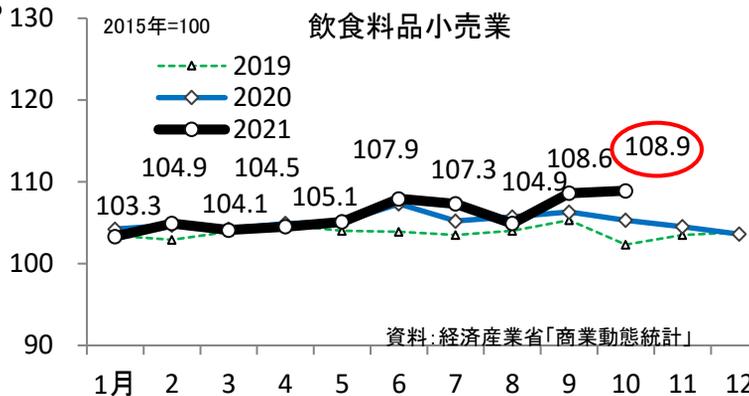


○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

10月 3.4% 増加

対前々年同月比 6.5% 増加

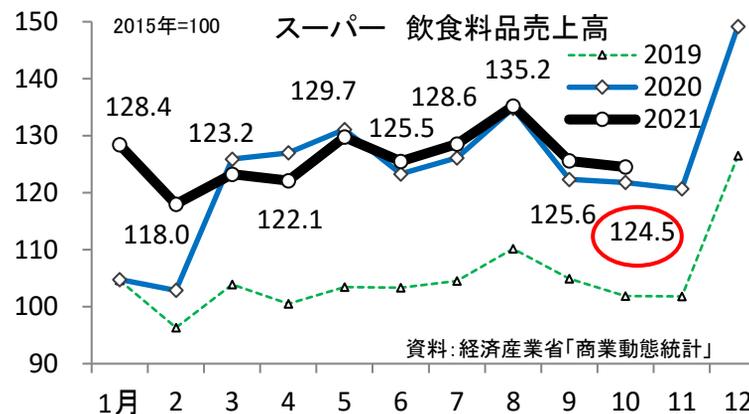


○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

10月 2.2% 増加

対前々年同月比 22.2% 増加



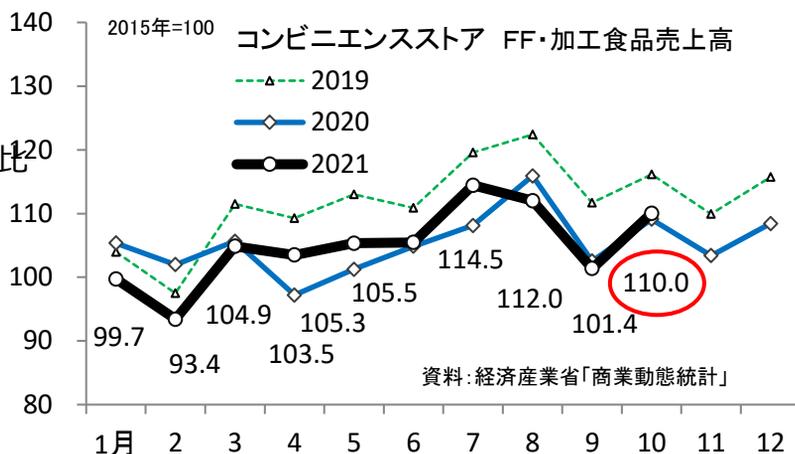
2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比

10月 0.9% 増加

対前々年同月比 **5.3% 減少**

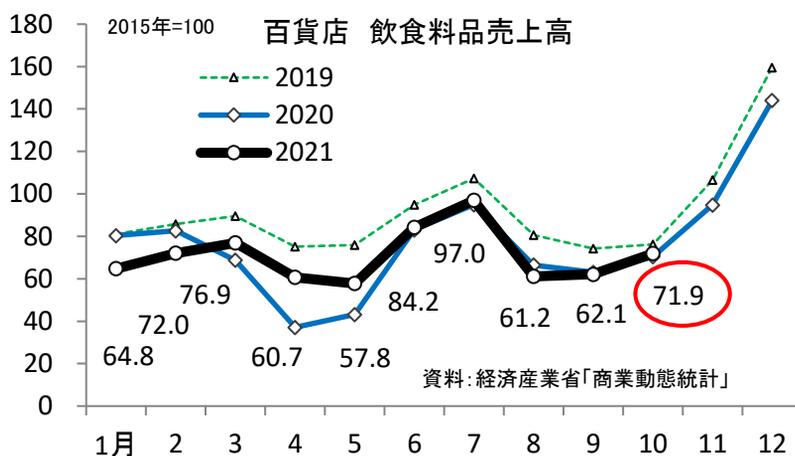


○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比

10月 2.1% 増加

対前々年同月比 **5.6% 減少**



3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

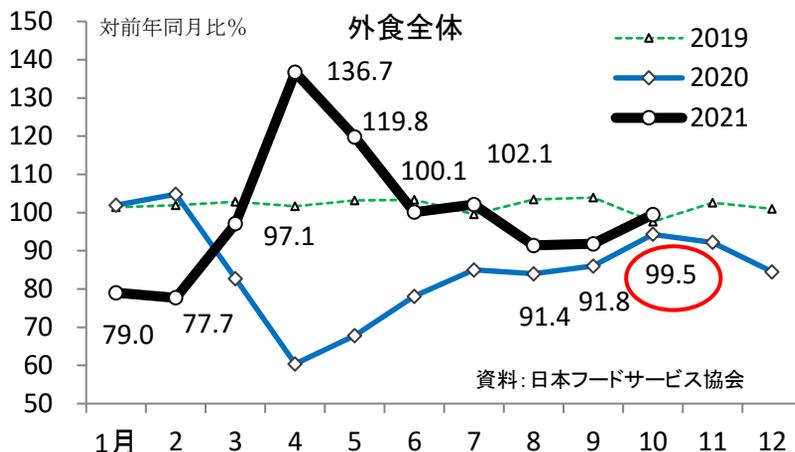
一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食全体

全店売上高 対前年同月比

10月 0.5% 減少

対前々年同月比 **6.2% 減少**



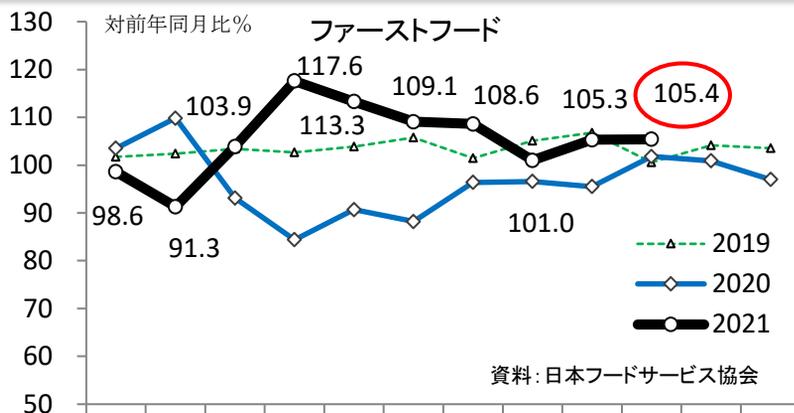
3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比

10月 5.4% 増加

対前々年同月比 7.3% 増加

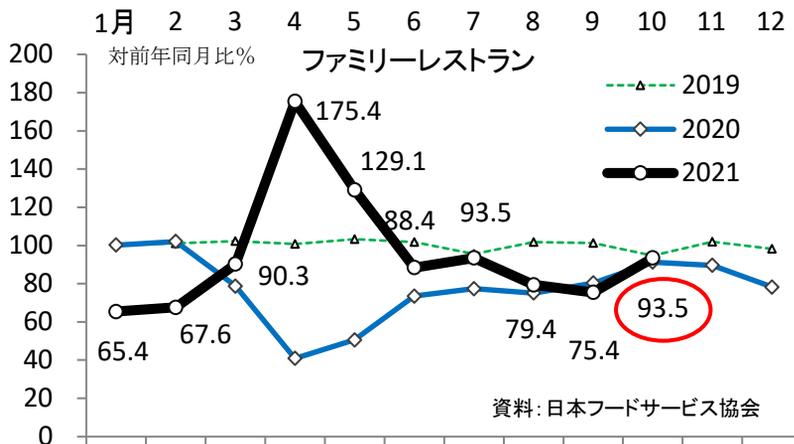


○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比

10月 6.5% 減少

対前々年同月比 14.6% 減少

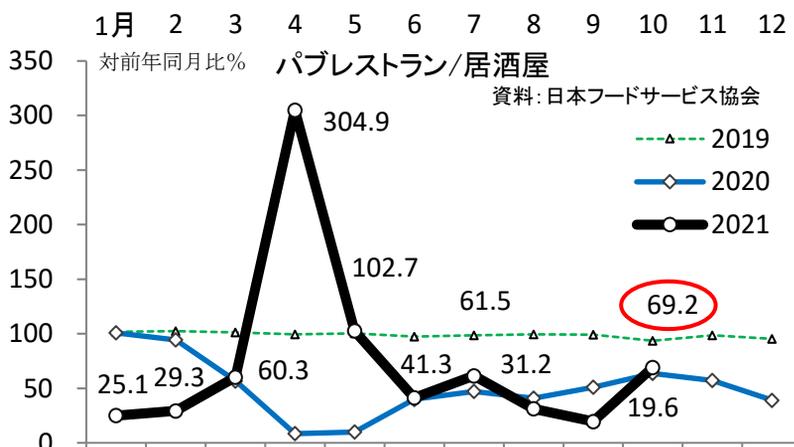


○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比

10月 30.8% 減少

対前々年同月比 55.9% 減少

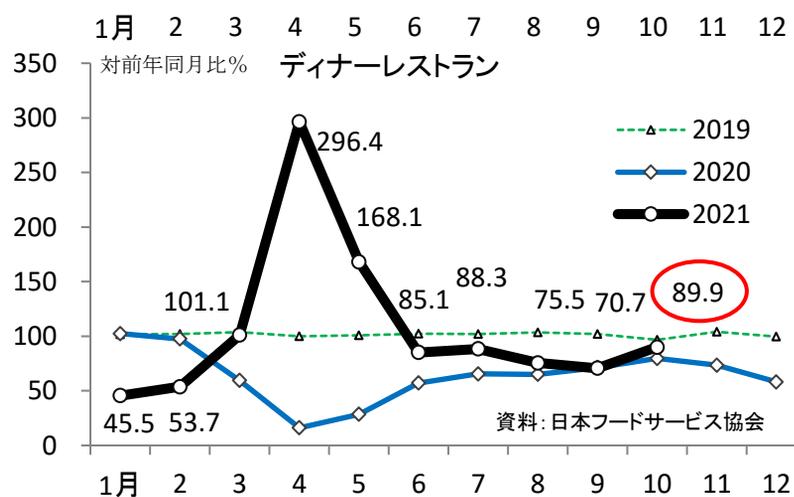


○ ディナーレストラン

全店売上高 対前年同月比

10月 10.1% 減少

対前々年同月比 28.4% 減少



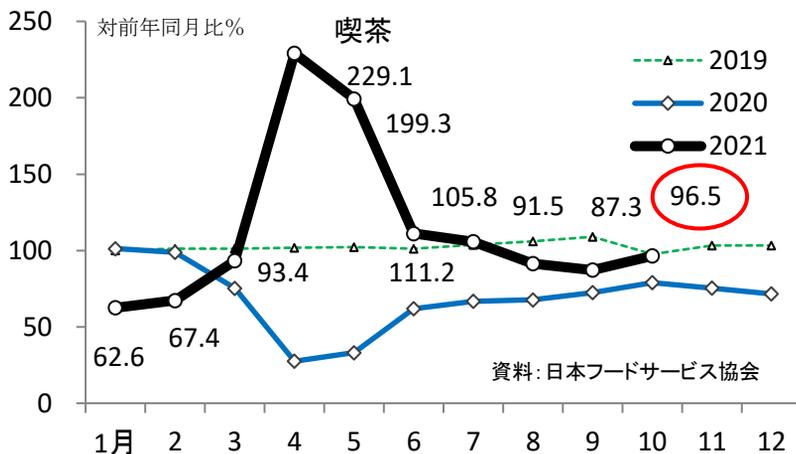
3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比

10月 3.5% 減少

対前々年同月比 **23.8% 減少**



4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2015年）の価格を100として、指数化したもの。

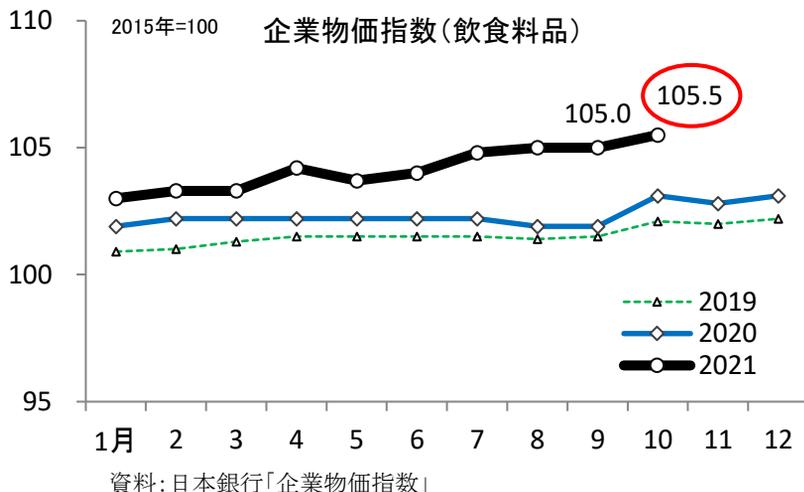
このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 企業物価指数 (飲食料品)

飲食料品 対前年同月比

10月 2.3% 上昇



○ 消費者物価指数

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

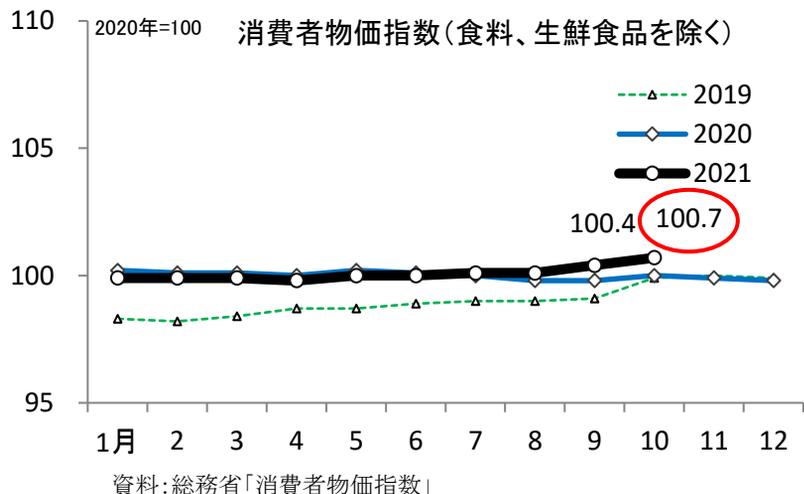
このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

○ 消費者物価指数 (食料(生鮮食品除く))

食料 対前年同月比

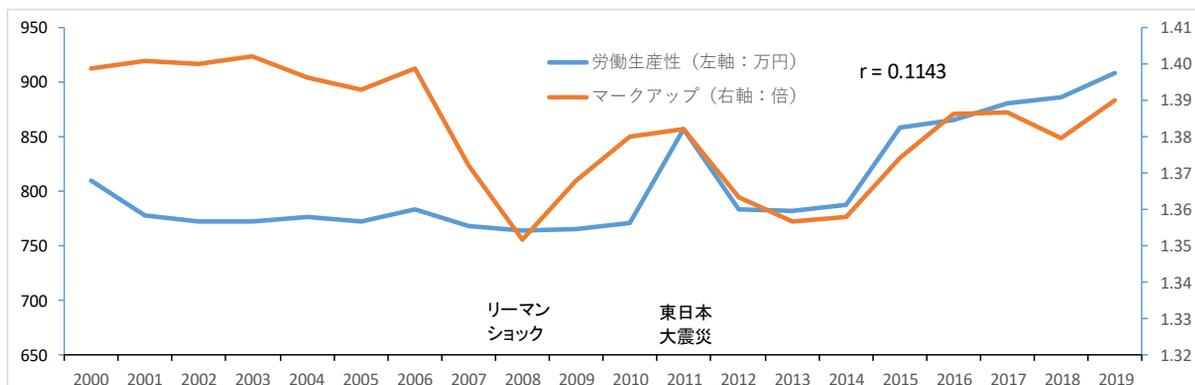
10月 0.7% 上昇



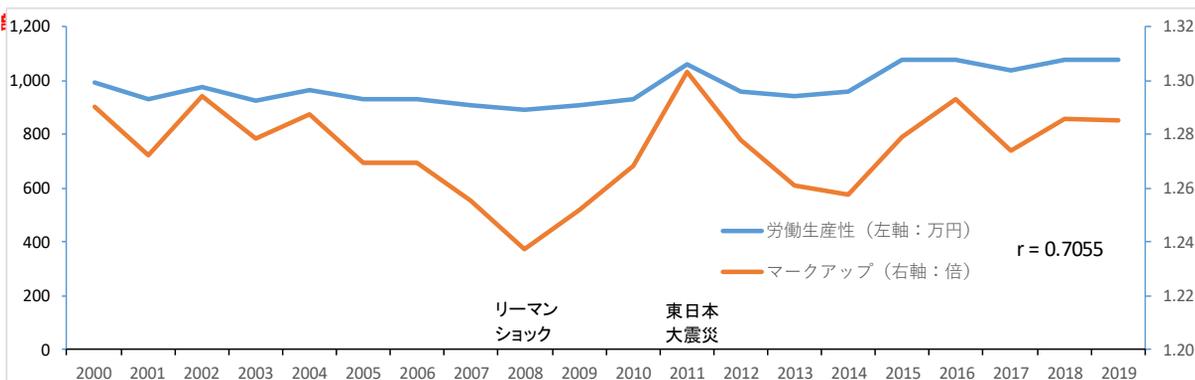
< 今月のトピック > - 食品製造業の労働生産性とマークアップ率 -

- ・食品製造業の労働生産性は、2000年以降についてみると、緩やかな上昇に留まっている。工場の再編統合や省力化などに上昇要因がある一方で、長年の低価格競争によるデフレが一因とみられる。
- ・マークアップ（倍）は、製造コストの何倍で販売できているかの指標であり、リーマンショックでは需要低迷により売価引き下げ等で悪化。東日本大震災では供給不足による価格上昇から改善傾向となっている。総じて、業種によるばらつきが大きい。また、労働生産性に比べて変動が大きい。

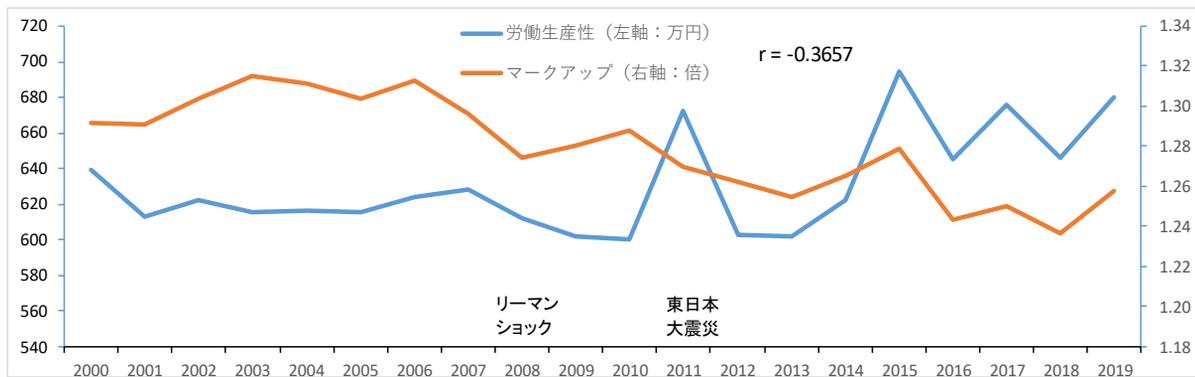
食品製造業計



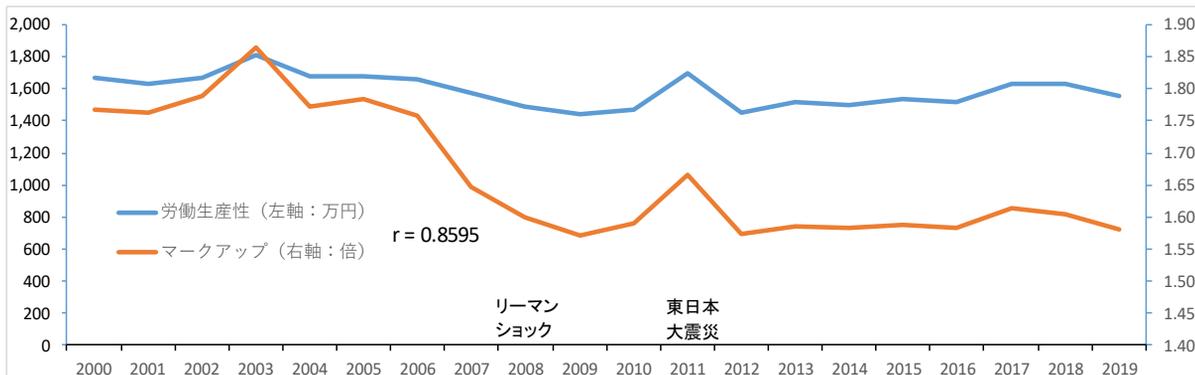
畜産食料品製造業



水産食料品製造業

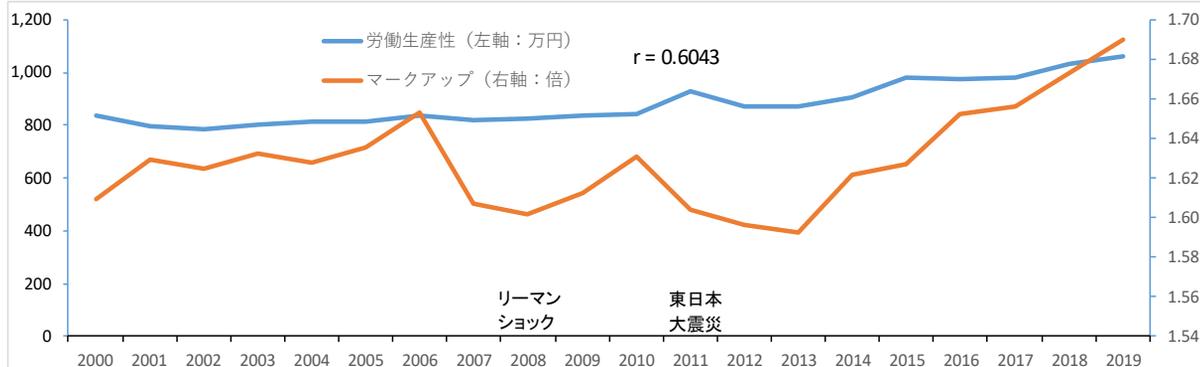


調味料製造業

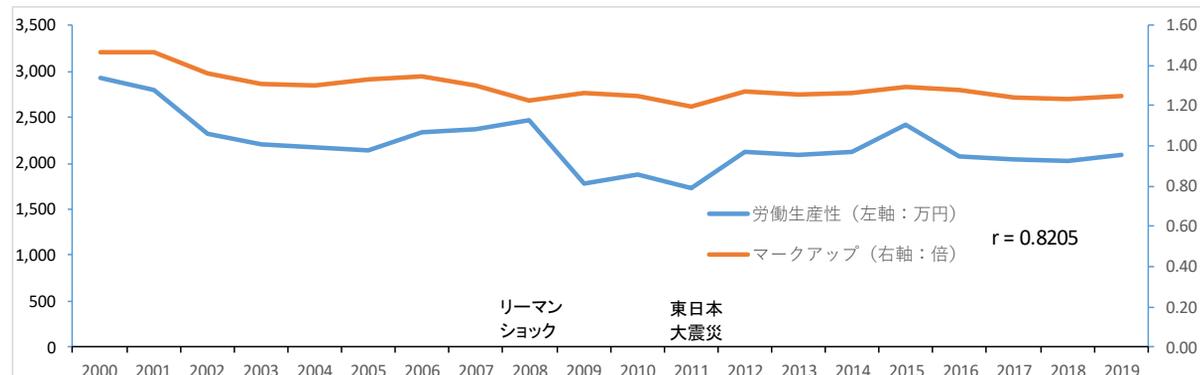


< 今月のトピック > - 食品製造業の労働生産性とマークアップ率 -

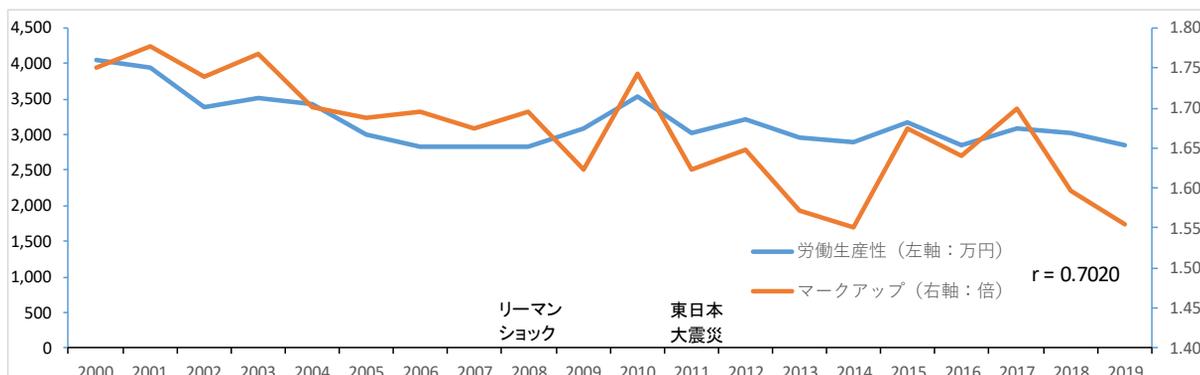
パン・菓子
製造業



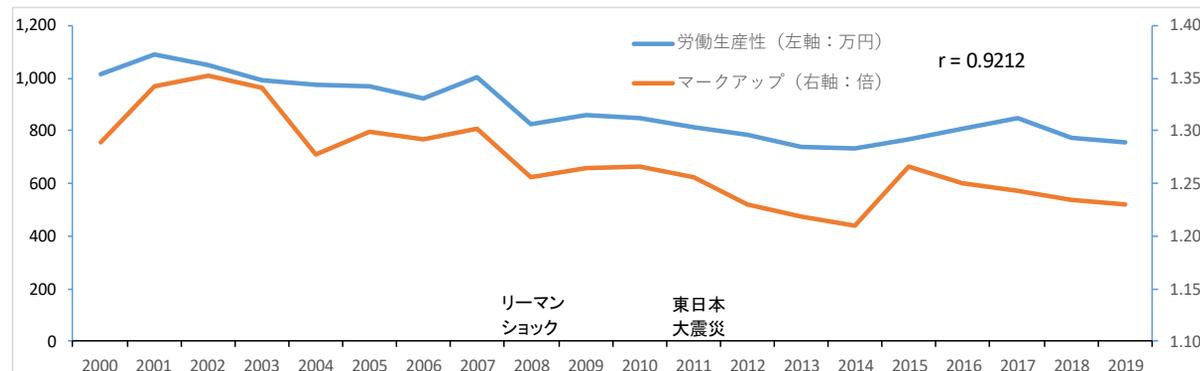
動植物油脂
製造業



清涼飲料
製造業



茶・コーヒー
製造業



注：経済産業省「工業統計表（従業者4人以上）」より算出したもの。：

マークアップ率の推計方法

- ・分子を製造品出荷額等、分母を現金給与総額と原材料使用額等の計とした分数である。
- ・「製造コストの何倍で販売できているか」の指標。製造業ではマークアップ率が高いほど売上高営業利益率も高い傾向にある。

日本の食品製造業のマークアップ率は欧米に比べて低いことが課題。